2019年5月期 決算説明会

2019年7月26日(金)

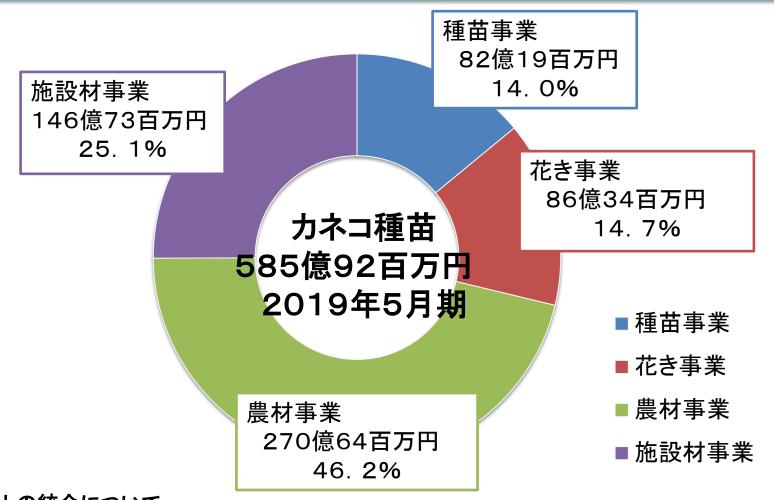


http://www.kanekoseeds.jp/

証券コード:1376

決算概況

連結売上高のセグメント別構成比



セグメントの統合について 2019年5月期(当連結会計年度)の期首より、管理区分の見直しを行い、「造園事業」を「種苗 事業」に統合いたしました。

決算ハイライト

【売上高】

- · 585億92百万円(前年同期比O. 9%減)
- 花き事業や種苗事業の販売減少により減収

【営業利益】

- 17億85百万円(前年同期比2. 2%増)
- 農材事業が順調に推移したことや、施設材事業で養液栽培 プラントの採算性の向上などにより、営業利益が増加

【経常利益】

- 18億99百万円(前年同期比O. 4%増)
- 営業利益の増加に伴い経常利益も微増

【親会社株主に帰属する当期純利益】

- 12億84百万円(前年同期比31. 2%増)
- 前年同期に減損損失を計上した反動から特別損失が減少し増益

連結損益計算書

	17/5月期	18/5月期	19/5月期	前期比
売上高	57, 848	59, 102	58, 592	△510
営業利益	2, 015	1, 747	1, 785	38
(営業利益率)	(3.5%)	(3.0%)	(3.0%)	_
経常利益	2, 116	1, 891	1, 899	7
(経常利益率)	(3. 7%)	(3. 2%)	(3. 2%)	_
親会社株主に帰属する当 期純利益	1, 489	978	1, 284	305
(親会社株主に帰属 する当期純利益率)	(2. 6%)	(1. 7%)	(2. 2%)	_
1株当たり純利益(円)	126. 86	83. 35	109. 39	26. 04

連結貸借対照表

		17/5月期	18/5月期	19/5月期	増減
	流動資産	35, 156	36, 305	36, 321	16
	固定資産	8, 212	8, 690	9, 204	513
資	資産合計	43, 369	44, 995	45, 526	530
	流動負債	23, 806	24, 566	24, 182	∆383
	固定負債	1, 876	1, 706	1, 724	18
	負債合計	25, 683	26, 272	25, 907	∆365
	純資産合計	17, 686	18, 722	19, 619	896
負	負債純資産合計	43, 369	44, 995	45, 526	530
	自己資本比率	40. 8%	41. 6%	43. 1%	+1.5%

連結キャッシュ・フロー計算書

	17/5月期	18/5月期	19/5月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1, 705	1, 516	892
投資活動によるキャッシュ・フロー	△27	△658	∆869
財務活動によるキャッシュ・フロー	Δ1, 264	∆307	∆362
現金及び現金同等物に係る換算差額	Δ7	△7	2
現金及び現金同等物の増減額	405	542	∆337
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	71	_	_
現金及び現金同等物の期末残高	4, 369	4, 911	4, 573

営業活動によるキャッシュ・フロー	たな卸資産(10億25百万円)が増加したことや、法人税等(5億76百万円)を支払うなど で資金を使用したものの、税金等調整前当期純利益(18億45百万円)の計上や売上債 権(7億6百万円)の減少等により、8億92百万円の資金を獲得いたしました。
投資活動によるキャッシュ・ フロー	有形固定資産の取得に(6億73百万円)、投資有価証券の取得に(2億7百万円)それ ぞれ支出したことなどにより、8億69百万円の資金を使用いたしました。
財務活動によるキャッシュ・フロー	配当金の支払(3億14百万円)などにより3億62百万円の資金を使用いたしました。

セグメント別業績

セグメントの統合について

2019年5月期(当連結会計年度)の期首より、「造園事業」を「種苗事業」に統合するなどの改訂を行いました。

2018年5月期(前連結会計年度)のセグメント別業績についても、改訂後の方法に基づいて算定した数値を使用しております。

セグメント別主要取扱商品

■種苗事業

野菜種子 牧草種子 ウイルスフリー苗及び種イモ 造園・法面工事

■花き事業

花苗、家庭菜園用野菜種苗 球根、花種子 家庭園芸用資材

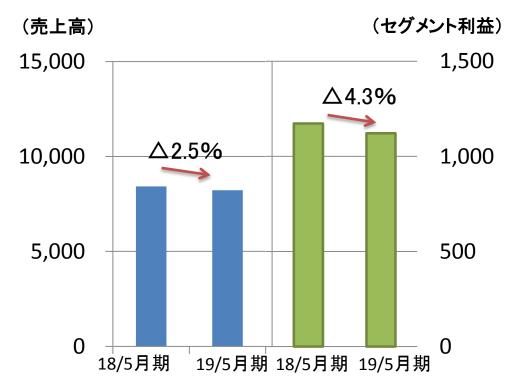
■農材事業

農薬 被覆肥料

■施設材事業

農業資材 養液栽培プラント 温室

種苗事業



(単位:百万円)

	18/5月期	19/5月期	増減率
売上高	8, 426	8, 219	Δ2. 5%
セグメント利益	1, 172	1, 121	Δ4. 3%

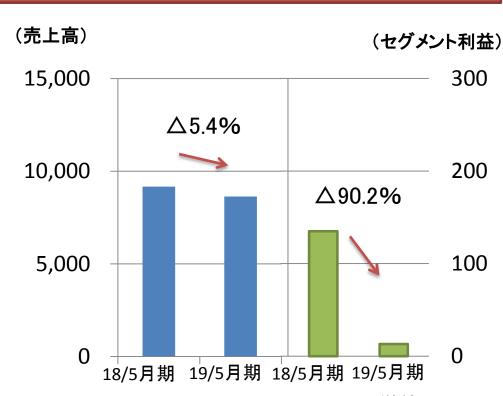
【セグメント事業内容】

野菜種子や牧草種子、ウイルスフリー 苗及び種イモの委託生産・仕入・販売、 また主に群馬県内において造園・法面 工事の設計・施工を行っております。

主な減少要因

- 野菜種子の国内販売は、エダマメのシェアアップや日東農産種苗㈱からの一部事業譲り受けにより獲得した品種の売上が上乗せになりましたが、キャベツの販売が減少
- 野菜種子の輸出は、ニンジンやトマトの 販売は増加しましたが、カボチャの輸出 が販売時期のズレにより販売減となり、 キャベツの輸出も減少
- ・牧草種子関係では、災害復旧向け緑化 工事用種苗やスポーツターフ等の販売が 増加
- ・今期種苗事業に統合した造園工事の受 注が減少
- ・ウイルスフリー苗及び種イモ関係では、 ナガイモの種イモの生産が天候不順に より不作となったことに伴い販売も減少
- ・売上高の減少や人件費、種子検査費用 等が増加したことなどにより営業利益が 減少

花き事業



(単位:百万円)

	18/5月期	19/5月期	増減率
売上高	9, 169	8, 634	Δ5. 8%
セグメント利益	135	13	Δ90. 2%

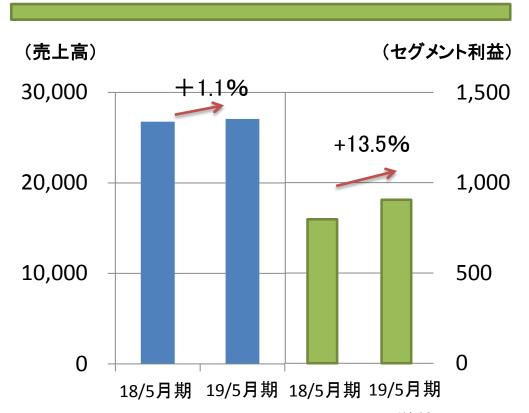
【セグメント事業内容】

家庭園芸愛好家向けに花き園芸用品や家庭菜園向けの野菜種苗等の販売を行っているほか、営利栽培農家向けに自社開発品種の販売を行っております。

主な減少要因

- 家庭園芸用品の需要が低迷
- ・販売先の園芸事業からの撤退
- 大手チェーン店において、業務提携に伴い、販売ルートが他社へ 移ったことやプライベートブランド 化による販売減などにより、減収 減益

農材事業



(単位:百万円)

	18/5月期	19/5月期	増減率
売上高	26, 765	27, 064	1. 1%
セグメント利益	797	905	13. 5%

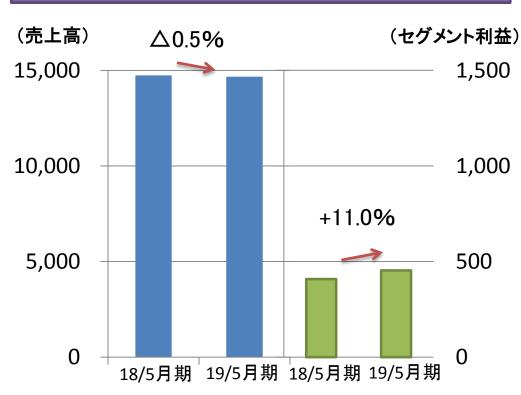
【セグメント事業内容】

農薬の販売を中心に被覆肥料等の 販売も行っております。

主な増加要因

一般家庭で茎葉除草剤の使用が 増えるなど購買層が広がったこと による需要増、農薬販売会社の寡 占化が進むなか土壌消毒剤の販 売でシェアアップが図れたことなど で増収増益

施設材事業



(単位:百万円)

	18/5月期	19/5月期	増減率
売上高	14, 740	14, 673	Δ0. 5%
セグメント利益	408	453	11. 0%

【セグメント事業内容】

農業資材を仕入れ販売しているほか、当社独自の養液栽培プラント及び温室を設計・施工し、販売しております。

主な売上高減少要因 度重なる台風により被害を受けた 農業用施設フィルム張替え需要の 増加や、環境負荷の低い生分解性 の被覆材の販売増があったもの の、養液栽培プラントや温室関係 は、完工時期が翌期にずれ込むな どで完工売上高が減少

主な営業利益増加要因 養液栽培プラントの採算性向上などにより営業利益は増加

2020年5月期見通し

通期連結業績見通し

	18/5月期	19/5月期	20/5月期 計画	増減	增減率 (%)
売上高	59, 102	58, 592	59, 500	907	1. 5
営業利益	1, 747	1, 785	1, 800	14	0. 8
経常利益	1, 891	1, 899	1, 900	0	0. 0
親会社株主に帰属す る当期純利益	978	1, 284	1, 350	65	5. 1

売上高	以下の増加要因により、売上高595億円で前年同期比1.5%を見込んでおります。 ・種苗事業 野菜種子のキャベツ・スイートコーンの国内販売の増加 輸出では、販売時期が次期にずれ込んだカボチャの販売増加 ・花き事業 オリジナル苗の販売増加や大手チェーン店向け販売強化による売上の回復
営業利益及び 経常利益	上記売上高の増加により、営業利益18億円、経常利益19億円で増益を見込んでおります。
親会社株主に帰属 する当期純利益	営業利益及び経常利益の増加により13億50百万円で前年同期比5.1%の増益を見込んで おります。

中期経営計画と経営戦略

前中期経営計画の振り返り

前中期経営計画

(単位:百万円)

	17/5月期 計画	18/5月期 計画	19/5月期 計画
売上高	58, 100	59, 500	61, 000
営業利益	2, 050	2, 200	2, 350
経常利益	2, 200	2, 350	2, 500
親会社株主に帰属する当期純利益	1, 470	1, 570	1, 670

実績 (単位:百万円)

	17/5月期 実績	18/5月期 実績	19/5月期 実績
売上高	57, 848	59, 102	58, 592
営業利益	2, 015	1, 747	1, 785
経常利益	2, 116	1, 891	1, 899
親会社株主に帰属する当期純利益	1, 489	978	1, 284

前中期経営計画の未達成要因

売上高

以下の要因により、売上高について計画が未達成となりました。

種苗事業	自然災害による販売用種子の不作等があったものの、ほぼ計画並に推移いたしました。
花き事業	当社オリジナル花苗・営利用種子は増収推移でありましたが、家庭園芸関連の市場縮小・消費低迷は変わらず、販売先の事業撤退などもあり、計画を大きく下回りました。
農材事業	増収推移でありましたが、計画にはやや届きませんでした。
施設材事業	関東甲信地区の雪害復旧の反動による耐久消費財の更新需要低迷が長引き、 計画が未達となりました。

営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益

以下の要因により、利益についても計画が未達成となりました。

- ・売上高の低迷による売上利益の未達
- ・販売費及び一般管理費の増加
 - ✓人員増および待遇改善による人件費の増加
 - ✓物流費用の増加
 - ✓大口設備投資に伴う減価償却費用の増加
 - ✔ 研究開発体制の充実に伴う費用増加
- ・18/5月期は事業拠点1カ所(川崎支店)で減損損失320百万円を計上

前中期経営計画の重要方針の取組みと成果

重要方針の状況

グローバルビジネスの推進と新たな海外ビジネスモデルの確立

- 留学生の採用及び外国人インターンシップを実施
- アフリカ向けキャベツの新規マーケットを獲得
- ・フィリピン所在の海外子会社(フィリピーナス・カネコ・シーズ・コーポレーション)と連携して「熱帯・亜熱帯向け飼料用トウモロコシ」を開発・販売。また、「東南アジア向けトマト」の品種開発に着手
- ・養液栽培プラントを台湾へ輸出、海外市場を開拓
- 野菜種子等の海外生産拠点を拡充。安定供給体制の構築を推進

国内マーケットの競争力強化

- ・農業へ新規参入を図る大手企業や農業生産法人に対して、植物工場・温室・野菜種 子など総合力を活かした営業活動を推進
- ・北海道、東北、九州の各地区ともに、着実なシェアアップにより売上は伸長

新中期経営計画

新中期経営計画 (単位:百万円)

	20/5月期 計画	21/5月期 計画	22/5月期 計画
売上高	59, 500	60, 700	62, 000
営業利益	1, 800	1, 850	1, 900
経常利益	1, 900	1, 950	2, 000
親会社株主に帰属する当期純利益	1, 350	1, 370	1, 400

事業環境

農業を取り巻く環境

マイナス要因

国内

食料消費の低迷・就農者の高齢化 気象条件の変化による農産物生産の不安定化 家庭園芸分野での需要低迷

プラス要因

国内農業強化のための農政・大規模化・農産物輸出の増加

急激な人口増加による食料需要の拡大

海外

新興国の経済発展による所得上昇による肉食の増加やそれに伴う 飼料の需要拡大・高品質な野菜等への需要増

世界的な気象変動による作柄の不安定化

当社グループの戦略

当社グループの経営基本方針

ハイテクと国際化

農業関連の総合企業

グリーン事業のトータルプランナー

ハイテクと国際化・農業関連の総合企業 グリーン事業のトータルプランナー

●種苗事業

当社グループの強み

(野菜種子)

幅広い野菜品種の育種による遺伝的資源と種子検定技術の蓄積

(栄養繁殖系野菜)

民間企業では取り組む企業が少ない交雑育種による品種(シルクスイートなど)改良技術

(牧草種子)

世界初のF1品種を育成した研究開発力

- ✓種苗の生産ロケーションの拡充に加え、生産効率を高め、高品質かつ安定した 種苗供給体制を構築
- ✓国内外の他社種苗メーカーとの共同開発やOEM供給による販売推進
- ✓販売ルートを確立したアフリカ・南米市場での販売強化と、東欧での新規市場の開拓
- ✓注目されている新技術であるゲノム編集技術の可能性探究



ハイテクと国際化・農業関連の総合企業 グリーン事業のトータルプランナー

●花き事業

当社グループの強み

- ・当社オリジナル花苗・種子(トルコギキョウ、カーネーションなど)の育種開発技術
- ・家庭園芸用品のサプライヤーとして業界トップクラスのシェア
- 種苗および園芸用資材をトータルプランニングできる総合力

- ✓ 成長を続ける"eコマース"分野への営業活動を強化し、販売チャネルの多様化を促進
- ✓ 高付加価値商材である当社オリジナル花苗・種子の、海外生産および海外マーケットへの 販売を強化



ハイテクと国際化・農業関連の総合企業 グリーン事業のトータルプランナー

●農材事業

当社グループの強み

- ・主要卸売商品の"農薬"はフルラインで揃い、様々な顧客ニーズに即答できる提案力
- 国内トップシェアの販売実績に伴う高いコスト競争力



- ✓国内でまだまだ当社シェアが低い農業大産地への営業強化
- ✓ 成長を続ける"eコマース"企業との連携による販売拡大



ハイテクと国際化・農業関連の総合企業 グリーン事業のトータルプランナー

●施設材事業

当社グループの強み

- ・「養液栽培プラントおよび温室」(ハード面)に加え、「栽培技術支援」(ソフト面)でも 種子・肥料・農薬など総合的なサポートが可能
- ・農業資材卸では全国24拠点の支店網によるスピーディな物流機能とサービス体制



- ✓大型生産者・生産法人向けに、栽培の自動化やIoT関連技術を有する企業との 連携強化
- ✓農業用ハウス内の環境制御やICT(情報通信技術)の関連商材の販売強化
- ✓主に東アジアへの養液栽培プラントの輸出を推進
- ✓減反政策終了による施設園芸への転換需要の獲得



カネコ種苗株式会社概要

会社名	カネコ種苗株式会社
所在地	群馬県前橋市古市町一丁目50番地12
創立	1947年6月
代表者	金子 昌彦
資本金	14億91百万円(2019年5月末現在)
上場	東京証券取引所 市場第一部
発行済株式数	11, 772千株(2019年5月末現在)
従業員数	625名 (連結対象会社合計 671名) (2019年5月末現在)
グループ会社	3社(連結子会社 2社·非連結子会社 1社) (2019年5月末現在)
問い合わせ先	財務部 専務取締役財務部長 長谷 浩克 E-mail: h-hase@kanekoseeds.jp TEL: 027-251-1619 FAX: 027-290-1056